

【第三種郵便物認可】

障害者が戦力として働ける場がないなら、自分たちで作ろう。そうしたい思いを出発点に、障害者雇用の創出を後押しする活動を進める「福祉起業家経営塾」。コンサルティング会社の福祉ベンチャーパートナーズ(FVP、東京・千代田)が、2004年から開催している。



「福祉起業家」とは、経営者自身が障害者、もしくは起業の時点で最低1人以上の障害者を従業員として雇用し障害者の働く場を作り出す起業家を指す。

この経営塾の中核を担うのが、福祉施設の経営コンサルティングを手掛ける福祉ベンチャーパートナーズ社長の大塚由紀子氏(45)。

### 福祉起業家経営塾 (東京・千代田)



左から大塚、稲山、吉田の各氏

## 障害者雇用の創出後押し

起業後のビジョンの具体化から障害者雇用を前提とする事業モデルをベースにしたビジネスプランの作成に至るまで、「寺子屋方式で身につけてもらう」(大塚氏)。年2回開催の経営塾で、自ら講師を務める。

中小企業診断士の同氏がFVPを設立したのは03

段階で、生徒たちから夢の

年。ヤマト福祉財団の故・小倉昌男会長(元ヤマト運輸会長)に出会い、障害者雇用の場がないなら一から作れば良いと一念発起。障害者の経済的自立支援を目的にFVPを立ち上げた。

創業当時から大塚氏の片腕を務めるのが、中小企業診断士の稲山由美子氏(42)だ。大塚氏と出会ったのは診断士の勉強会。FVPの話を通じて聞いたときは、「そういう仕事があるんだ」と新鮮に感じたという。「福

社と経営の両立には、大きな課題がある」と問題意識を持つようになり、この世界に飛び込んだ。稲山氏は現在、経営塾の講師の一員として、生徒たちのコーチ的な役割を果たす。経営塾の仕上げともいえるビジネスプランの作成段階で、生徒たちから夢の

具体的には、大塚氏(45)がFVPを設立したのは03年。ヤマト福祉財団の故・小倉昌男会長(元ヤマト運輸会長)に出会い、障害者雇用の場がないなら一から作れば良いと一念発起。障害者の経済的自立支援を目的にFVPを立ち上げた。創業当時から大塚氏の片腕を務めるのが、中小企業診断士の稲山由美子氏(42)だ。大塚氏と出会ったのは診断士の勉強会。FVPの話を通じて聞いたときは、「そういう仕事があるんだ」と新鮮に感じたという。「福

経営・人事

(当千晶)